

髄膜炎菌ワクチンができます

パスポートの準備と同じくらい大切なこと。それはワクチンのキャッチアップ接種です。
渡航前・留学前にいくつかのワクチンを急いで接種しなければなりません。
少なくとも出発の2ヵ月前にご相談ください。

特に米国の大学に留学し、寮生活をする予定の方はぜひ、髄膜炎菌ワクチンをお勧めします。
侵襲性髄膜炎菌感染症（IMD）は日本国内では、あまり馴染みのない病気かもしれませんが、髄膜炎菌は若年の高密度集団を好む菌という特徴があり、寮に住む大学生は IMD ハイリスク群として位置づけられています。
そのため米国予防接種諮問委員会（ACIP；The Advisory Committee on Immunization Practices）は2005年より、寮生活者に対し、髄膜炎菌ワクチンの接種を推奨してきました。

侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD:Invasive meningococcal disease)は早期診断が難しく、発症から24時間以内に死に至ることもあります¹。

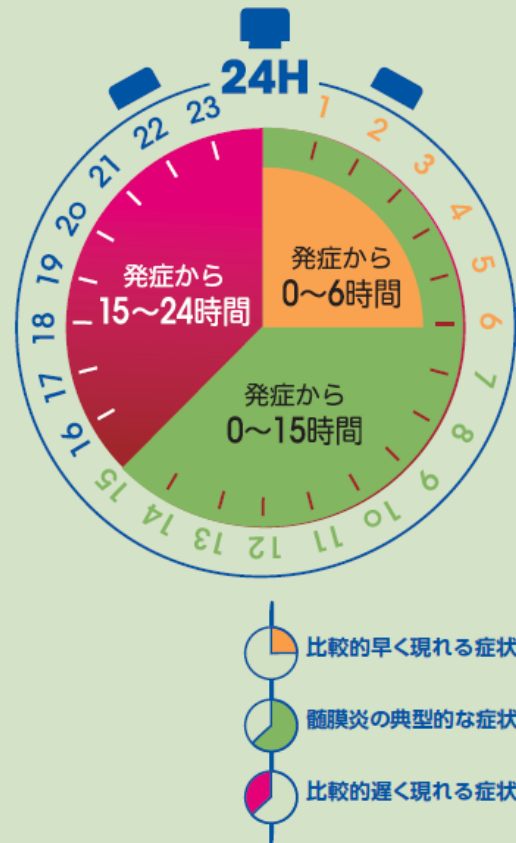
■ IMDの症状

侵襲性髄膜炎菌感染症（IMD: Invasive Meningococcal Disease）の症状は、はじめのうちは風邪と似ており、典型的な症状は時間が経ってから出現します。急速に進行し、24時間以内に死に至る場合があります¹。

※図①と図②は、IMDの約半数を占める²髄膜炎菌性髄膜炎の主な症状と症状が現れるまでの時間を示しています。

〈図②：髄膜炎菌性髄膜炎の症状が現れるまでの時間〉

〈図①：髄膜炎菌性髄膜炎の主な症状〉



1. Thompson MJ, Ninis N, Perera R et al. : Lancet 367 : 397-403, 2006
2. Rosenstein NE, et al. : N Engl J Med 344 (18):1378-1388, 2001

http://e-mr.sanofi.co.jp/products/menactra/downloads/MENAC_15_04_0121.pdf

渡航前ワクチンについてのお問い合わせはこども診受付まで。
詳しいパンフレット等ご希望の際はその旨お申し付けください。